

令和 7 年度

第5次総合振興計画事務事業評価シート(様式1)

提出日	R7.6.23
担当課名	子育て支援課
グループ名	子育て支援グループ
記入者名	

1 事業概要

(1)事業名	町立保育園等管理運営費	(2)事業種別 (新規・継続)	継続	(3)事業性格 (政策・一般)	一般事業
(4)第5次総合振興計画での位置づけ	(5)予算・財源等の別				
①基本目標	健康で安心して住めるまち(保健・医療・福祉の充実)				
②大項目	子ども・子育て支援				
③中項目	保育の充実				
④施策	施設及び運営体制の整備				
⑤施策コード	5.3.1.2	掲載ページ	85	ページ	
(6)実施根拠	(7)総合戦略				
①事務分類(自治・法定受託)	自治事務				
②根拠法令・条例等	児童福祉法				
③事業期間	開始	昭和40年	4月	から	終了 令和8年 3月まで

2 事業の目的・内容等

(1) 目的(何のために行うか)				(2) 内容(どのような取り組みか)			
日々の保護者の委託を受けて、保育を必要とする乳児または幼児を保育すること。				大河・八和田保育園において、年齢に応じた保育方針により保育を実施する。			
(3)対象(誰に対して、何に対して行うか)				(4)成果イメージ(どのような状態になることを目指すか)			
保育を必要とする、0歳から5歳の児童。				豊かな自然の中で、のびのびと集団生活を楽しみながら、様々な体験を通して心身ともにたくましく生きる力、豊かな情緒、友達を大切にする気持ちを育む。また低年齢児保育・延長保育・障害児保育・一時保育等を実施し多様な保育ニーズに対応。			
対象数	127	単位	人				

(5)事業を取り巻く環境(社会環境や町民ニーズ等)

保育園での保育ニーズは低年齢児化しており、0歳児から保育園を利用したいという世帯も多い。また、虐待やDVのおそれがある世帯からの入園希望もあり、保護者支援を必要とする場合が増加しているため、保健師との関わりも多くなっている状況がある。乳幼児期にふさわしい生活を豊かに作り上げるとともに、子どもと保護者のかかわりを見守り、適宜必要な援助を行っていく。令和8年度に運営を社会福祉協議会へ移行する。

(6)SDGsへの貢献



3 事業のコスト(実績・決算・予算) (単位:千円)

(1)事業(内容) 項目 名称		町立保育園等管理運営費				
決算・予算年度		R3年度決算	R4年度決算	R5年度決算	実施年度(R6年度)決算	今年度(R7年度)当初予算
(2)事業費内訳	報償・期末勤勉手当	37,356	39,906	46,417	56,739	64,832
	報償費	490	490	490	490	490
	需用費	18,682	18,223	17,533	18,947	22,456
	役務費	1,747	989	975	897	962
	委託料	2,343	945	788	944	971
	その他	9,621	3,976	2,982	2,895	7,245
直接事業費合計		70,239	64,529	69,185	80,912	96,956
(3)財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他特定財源	20,306	23,202	21,540	22,271	28,115
	一般財源	49,933	41,327	47,645	58,641	68,841
	合計	70,239	64,529	69,185	80,912	96,956
(4)補助金名						
(5)人件費						
投入職員数		23.8	22.1	19.1	20.2	20.2
年間人件費		181,546	166,678	143,651	156,994	162,246
(6)総事業費		251,785	231,207	212,836	237,906	259,202
サービス量(延べ人数)		1,733	1,573	1,384	1,465	1,920
サービス単価		145.3	147.0	153.8	162.4	135.0
(単位)		千円/園児一人・1日当たり				

4 指標の検証				町立保育園等管理運営費			
指標名			単位	R5年度決算	実施年度(R6年度)決算	今年度(R7年度)予算積算	
(1)活動指標(実施した事業の量)							
指標名	障害のある児童の保育	目標値	人	9	9	9	
		実績値	人	8	9		
		達成率	%	88.9	100.0		
		目標値					
		実績値					
		達成率					
(2)成果指標(実施した結果として得られた成果の量と達成度)							
指標名	障害のある児童の保育	目標値	人	9	9	9	
		実績値	人	8	9		
		達成率	%	88.9	100.0		
	保育所待機児童数 (総振目標指標p117) R7年度目標値 0人	目標値	人	0	0	0	
		実績値	人	0	0		
		達成率	%	100.0	100.0		
(3)その他指標に現れない成果							
いずれの保育園も自然に恵まれた環境にあり、日常保育での散歩等を通じて園児は周囲の自然に親しんでいる。 花苗・野菜の栽培を通年で保育内容に取り入れ、外遊びも多く取り入れている。 障害のある児童に対しても、加配保育士を採用し、安全安心な保育に努めた。							
5 事業評価							
(1)項目別評価							
評価項目		評価		評価理由	評価した理由を選択してください。		
必要性	事業の必要性	1	1 必要性は高い 2 どちらともいえない 3 必要性が低い	1	1 事業の実施が関係法令等で定められている 2 住民や団体など外部から要望・要請が多い事業である 3 その他()		
妥当性	実施主体の妥当性	1	1 妥当である 2 どちらともいえない 3 妥当性が低い	1	1 事業の主体が関係法令等で定められている 2 民間では事業を行っておらず、行政が主体となるべき事業である 3 その他()		
	手段の妥当性	2	1 妥当である 2 どちらともいえない 3 妥当性が低い	3	1 事業を行うのに民間活力(企業、NPO、ボランティアなど)を活用している 2 他に有効な代替手段が見当たらない 3 その他(保育園の民間移行を進める)		
効率性	コスト効率性 人員の効率性	3	1 効率的である 2 どちらともいえない 3 効率性が低い	3	1 サービス単価は減少している 2 サービス単価を維持している 3 その他(民間保育園と比較してコスト効率性が低い)		
公平性	受益者の偏り	1	1 偏りはない 2 どちらともいえない 3 偏りがある	1	1 公平に分配されている 2 おおむね公平に分配されている 3 その他()		
有効性	成果の向上	1	1 成果が上がっている 2 どちらともいえない 3 成果が下がっている	2	1 成果指標は、目標値より実績値が上回っている 2 成果指標は、前年度より向上している 3 その他()		
進捗度	事業の進捗	2	1 順調に進んでいる 2 概ね順調である 3 あまり順調に進んでいない	1	1 年度内に予定した事業は完了した 2 年度内に予定した事業の8割以上は完了した 3 その他()		
(2)総合評価(上記結果を踏まえて、今後の課題と対応を記載してください。)							
近年、保護者支援の必要性が大きくなってきている。保護者支援をはじめ、障害児支援、DV等の対応には専門的な知識が必要とされる。町立保育園では障害児を受け入れ、保育を実施している。 障害児受け入れに際しては、医師の診断書をもって申出を基本としているが、近年保護者の理解が得られないケース、医療機関が混雑し受診までに時間を要するケースが生じており受け入れの課題となっている。 また、保育園舎の老朽化も課題であり、こども達により良い環境を提供できるよう、運営費・施設整備面でも優位性の高い民間移行を進めていく。							
6 事業の方向性の判断				1 拡充 2 現状維持 3 縮小・統廃合			
評価主体	評価	評価についての説明					
(1)一次評価 (担当課長)							
(2)二次評価 (政策推進課長)							
(3)最終評価 (町長)	3 縮小・統廃合	保育サービスの向上と持続的な運営のため、適切に移行を進める。					